

色即是喰喰即是色

今野英山

konno eizan

Haiku
de
Kinoko

いつのまにかキノコの森に迷い出でてしまった。
千葉菌類談話会に入会して3年が経とうとしているが、レバー
トリ一はさして増えず、諸先輩の後からついていくだけなのが
が、キノコに関心をもつてからいろいろ楽しい体験をすること
ができた。

分け入れば 菖庭のごとき ナメコかな
気がつけば 絵本の中の ショーゲンジ

昔からアウトドアを中心に、一通りいろいろ手をだしたが、な
んといつてもキノコは季節限定であり、食べられるという点が
魅力である。しかも毒キノコの存在がその奥ゆきを限りなく深
くしている。

毒という ツチスギタケの一味のよさ

しかも単に食べるだけではなく、時には(たいていそうだが)
人様の敷地や畠の中を探し回るというスリルも味わうことがで
きる。

ハルシメジ 瓜田に履の おもいかな

この会に入つて始めてカンゾウタケなるものを知つた。その
独特の形態や味もさることながら、梅酒と同じようにホワイト
リカーレ漬けるとなかなか乙なりキユールになる。果実酒に関
しては20年以上のキャリアをほこり、野生のリキユールによ
るオリジナルカクテルを創り続けてきた私に、もう一つ「キノ
コのリキユール」のジャンルが加わったようだ。今後の成果に
乞う御期待。

そして勿論、性の世界もかいま見るのである。
幼菌も ちんばに似たり アミガサタケ

形あるものには実体ではなく、いつかは無となる。そして無から新
しいものが生まれる。これは大乗仏教にいう「色即是空 空即是色」
の世界である。ただ無常というだけではなく、新しい生命につなが
るから救済があるのである。だからこのは偉いのである。
そうか、きのこってのはすごいんだなーと独りで合点しながら、キ
ノコ鍋のことを思うのである。

騒ぐ血を 封じ込めたり カンゾウ酒

南無阿弥陀 無常味わう キノコ鍋

キノコの魅力は、なんといっても怪しげなところだ。ふだん表には見えない地下の世界の中で棲いていて、それでしつかり地上の營みと関わっている。たとえてみれば「やくざ」のようなものかもしれない。光合成によって植物が成長し、それを動物が食べるという連鎖が表社会の実体ならば、菌類はその表社会の不始末を処理したり、時には裏でたかつきする日陰もの。年に1~2回ハデなキノコとなつて注目されるのは、祭で御輿をかつぐ時に刺青をみせびらかしているようなものだ。そういうえば「菌根菌」のような仁侠の徒もいれば、「腐朽菌」のような暴力団もいる。

ツキヨタケ 間夜に目立つ 三度笠

表と裏、生と死、此岸と彼岸、次元の異なる世界を行き来する怪しげな奴である。

昔から、都市と農村との間には緩衝帯としての「盛り場」や「遊廓」があつた。そこはアウトローでもあり、新しい文化の担い手でもあつた。世の中からは出し、落伍した人間でさえ再生しうる起死回生の場所だったのかもしれない。まさに菌類の世界そのものではないか。キノコのあやしい美しさは「悪所に花開いた花魁」のようである。

花魁の 姿に似たり ベニテング